

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きらりはーと永国			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		～	2025年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数)	18
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		～	2025年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達心理学を基にした体育（運動療育）を中心に身体能力の向上と社会適応を目指した療育を行っていること。	スモールステップで成功体験を重ねられるサーキットをすることで、できることが増えるようにしながら自己肯定感を高めることができている。難しい運動も前向きに取り組む子どもが増え、できるようになったことを披露してくれる子どもも増えた。	より難しい運動にチャレンジできるようにレベルに応じて活動内容に変化をつけること。子どもたちがお手本を見せる機会を増やすことで、やる気につなげていきたい。
2	将来に向けての自立や社会性の向上、高学年に対しては作業班を通して働くために必要な技術を増やす活動をしている。	月一回の食育では、自分で作ったものを自分で食べることで食への興味関心を高めている。作業班では外注作業やボールペンの組み立て等の作業を取り入れることで、就労に向けて必要な集中力やルールなどの社会性を伸ばす活動を取り入れ、保護者からも一定の評価を得ている。	可能な範囲での買い物学習や関連企業への校外学習などより自立に向けた活動を取り入れていきたい。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	プログラムが明確になっている分、小学校の高学年になると学校で時間割通りに過ごし、その後の事業所でも時間割に沿って行動することからモチベーションの低下、顕著に疲れがみられる子もいる。	学校の疲れで体操療育に前向きに取り組めない子もいる。楽しみを見いだせない子もいる。	子どもが前向きに楽しく過ごせるように自由遊びから一人一人の子としっかりと関わる時間を設けて、楽しい気持ちを維持しながらプログラムに入れるようにより一層コミュニケーションを密にとる。
2			
3			